

交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史

Key words プランテーション、グローバル・ヒストリー、国際関係の多核化

1 活用する主な展示および資料

- ハワイの「プランテーション」に関する展示および資料
- アメリカ合衆国の日本人移民の歴史に関する展示および資料
- 日本人移民がハワイに渡った時代の日本・アメリカ合衆国・ハワイの年表

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 高等学校地理歴史科（歴史総合）
- 全4時間（事前1時間、見学2時間、事後1時間）

3 目標

- 日本人移民がハワイに渡ってからの日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史を年表から理解し、グローバルな視野で歴史を捉え、解釈するための情報を調べ、まとめようとしている。【知識・技能】
- 19世紀のハワイにおける「プランテーション」などを事例に日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史が交差するポイントを見つけ、今とのつながりを表現している。【思考・判断・表現】
- 日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史の関係性を考え、今とのつながりを主体的に追究し、多角的・多面的に考察することで、相互の文化を尊重しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【教材観】日本人移民がハワイに渡ってからの日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史年表（19～20世紀）を採用する。同時代において関係する国・地域の歴史年表を比較分析することで、歴史を時間認識だけでなく、空間認識を意識したグローバル・ヒストリーの観点から学習活動を進めることができる。グローバル・ヒストリーの視点は、これからの社会の捉え方を養成し、国同士の関係性から歴史の探究ができる契機となる。このことは、従来の通史的な歴史理解を問い直すことにつながる。

【単元設定の理由】「日本・アメリカ合衆国・ハワイの関係性を意識した歴史」を中心に単元設計する。時間軸と空間軸が交差するポイントにある歴史に気づき、生徒一人ひとりの考える関係性を引き出すことをねらいとする。また、移民という「人」に着目することも重視する。成田喜一郎（2023）は「人間史（じんかんし）」を「特定の歴史上の人物史・個人史ではなく、現在と過去、現在と未来、未来と過去など『時間』との対話により紡ぎ出される、人と人との『あいだ（間／愛だ）』の歴史である。その人とは、その時代・時間に生きた人たちと今ここにいる人、私たちのことでもある」としている。これら時間・空間・人間（じんかん）の交差する歴史の探究は、事実認識と想像力をつなぐ契機ともなる。

【資料館活用の視点】関係する国・地域同士の歴史の関係性を時間・空間の側面から着目することに加えて、移民の個人史を通して「人間（じんかん）」の側面からも歴史を認識できるように促す。



5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【単元を通して考え続ける問い】 関係する国同士から「歴史」を捉えることは、これまでに考えていた歴史とどのような点が異なるのだろうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Okage Sama De（おかげさまで）」に込められた想い 問. あなたは、「Okage Sama De（おかげさまで）」という言葉から何をイメージしますか。 ●「感謝」「先祖への想い」「日本人らしさ」など 2. 19～20世紀の日本・アメリカ合衆国・ハワイ年表分析 問. 1868年には、各国では何が起こっていましたか。 ●日本：王政復古の号令→明治維新へ ●アメリカ合衆国：憲法修正第14条発効→黒人市民権付与 ●ハワイ：日本人150人余（元年者）が出発 3. 高校講座「歴史総合」第9回の視聴 ●「アメリカ料理のルーツ」「大量生産のアメリカ」「プレートランチと移民」「日本人移民とハワイ」 	<ul style="list-style-type: none"> ●知っているか知らないかではなく、何を感じたのかを大切にできるように配慮する。 ●問いによって年表分析をする。 ●問いによって映像資料読解を促す。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年号・人物・出来事を意識して、探究してみる！ ●ハワイのプランテーション：「官約移民」「サトウキビ」「契約労働者」「ミックスプレート」「写真花嫁」など 2. 19～20世紀の「歴史」の中で、日本・アメリカ合衆国・ハワイが関係しているものを見つけてみよう！ ●「第二次世界大戦」：「真珠湾攻撃」「442連隊」「第100大隊」「ポツダム宣言」「ダニエル・K・イノウエ」など 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示見学をすることで、生徒一人ひとりが、自分の視点から「歴史」の交差点を探究し、自らの歴史観と対話できるようにする。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「歴史キャッチフレーズ」をつくろう！：自分が調査した情報をもとにして、「歴史的事実」をキャッチフレーズで表現し、そのキャッチフレーズの解説を作成する。グローバル・ヒストリーの視点から「歴史」を物語ってみよう。 ●例：「大量生産にともなう移りゆく民をめぐり送り出し国と受け入れ国のせめぎ合い」 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人ひとりが「歴史」を紡げるように「問い」を共有する。 ●展示から得た情報を根拠にするように促す。

6 学習後の姿

移民をテーマとした歴史を捉えることによって、為政者・権力者中心の通史的理解にとどまらない時間・空間・人間（じんかん）など多角的・多面的な側面からの歴史認識を可能とする。19～20世紀の日本・アメリカ合衆国・ハワイという長いスパンで関係があった国・地域の歴史を大観しながら、生徒一人ひとりの視点からつながりを見つけることで、歴史観を問い直している。このプロセスを「歴史キャッチフレーズ」というかたちで表現することで伝え合い、聴き合うことができている。

7 授業づくりのための参考資料

- 成田喜一郎（2023）『『人間史（じんかんし）』とは何か？』越えるまなくらへの旅：学びと暮らしと仕事（genkaikyokaiekkyo.blogspot.com）
- JICA 横浜 海外移住資料館（2017）『海外移住資料館だより』No.46
- NHK 高校講座「歴史総合」第9回ソ連の登場とアメリカの繁栄（2022年放送）